



# 森ボラ 通信

第107号 2011年4月20日発行  
NPO法人北海道森林ボランティア協会  
URL <http://www.geocities.jp/hokkaidoforest/>  
札幌市豊平区平岸1条1丁目9-6ラルズビル3F  
Tel(fax.):(011)816-7010  
E-mail: hshinrinv2002@nifty.com

## トピックス

### ◆ 3月セミナー(3月24日(木)15:00~16:40・リンテージプラザ) 「エゾシカ」の実情を知る

北海道立総合研究機構・環境科学研究センター自然環境部  
研究主幹 宇野裕之氏

今回のセミナーは、私達が森で活動していく中で、特に支笏湖周辺の森林においてよく足跡を見かけるようになったエゾシカの問題について、道立総合研究機構 環境科学研究センターの宇野裕之氏に「エゾシカの保護管理」というタイトルで話をさせていただきました。

話はまず、エゾシカが江戸時代から増加と減少を繰り返してきたという歴史的な話があり、大雪によりシカが激減すると産物である鹿皮も少なくなり人々が困窮、餓死者もでたとのこと。明治時代には缶詰工場を造ったほど捕獲していたこと、そして明治中期の大雪により絶滅の危機に瀕した為、捕獲禁止となり、その後は多少の増減を繰り返しながらも大きな問題となるようなことは無かった。しかし、1980年頃から爆発的な増加となり、農業被害等も増大し今日大きな問題となっている。

では、何故ここまでエゾシカが増えたのか？ その要因としては、①シカの高い繁殖力(妊娠率90%以上、増加率約20%)、②生息環境の改変(牧草地の開発、伐採跡地などの増加により餌となる植物が増えたこと)、③温暖化(冬の気温上昇、大雪の減少などにより死亡率が低下)、④捕獲圧の低下(狩猟者の減少)を上げられた。エゾシカの好物は広葉草本、イネ科草本で牧草等は大好物であり、冬の間はササ等を食べているが、草本の食物が無くなると木の皮(特にハルニレ・オヒョウニレを好む)や幼木の新芽や柔らかいところを食べる。従って、エゾシカが食べた跡は次世代を担う幼木が全く無くなってしまふ。農業被害も大きいですが、自然の基盤ともいえる森林被害はより大きな影響をもたらす。

エゾシカの生息地としては、従来道東と日高エリアが主であったが、2000年頃から道北および道央エリアにも広がってきて、現在全道で約62万頭が生息していると推定されていて、これは1990年頃の140%となっており、個体数管理を行っていかねば取り返しのつかない被害をもたらすことになる。因みに、ドイツやスコットランドでは個体数管理の仕組みをしっかりと作り、コントロールしている。でも、日本において早急に個体管理の仕組みをつくることは非常に難しい。エゾシカは北海道にとり貴重な資源であり、有効活用していくことが大事であること。先述のドイツ・スコットランドでは捕獲したシカはほぼ100%その肉を利用している。シカ肉は高タンパク・低脂肪であり、鉄分も多く良質な食物である。しかし、北海道では捕獲数の10%も利用されていない。

最後に、①被害管理(農作物・植栽木・自然植生)、②捕獲による個体数管理、③自然資源の持続的利用(食べて保全・シカ肉・皮革の有効活用)が大事であり、北海道の生物多様性保全にも繋がっていく。と纏められた。この後、質疑応答があり皆さんから多くの質問が出され活発な意見交換が行われました。(記・萩田)

エゾシカ肉については、下記エゾシカ協会のHPを見て下さい。大いに食べましょう !!  
<http://www.yezodeer.com/index.html>



## ■ 現場より

### ◆リンゴ園支援2011年度事業が開始される

4月7日から4月12日、斉藤林檎園での作業に参加しました。7日、午前中に用事のあった私が林檎園に着いてみると、既に皆さんが何本かの木を倒す作業を終え、一本の見事な老木(樹齢75年以上)の根元を掘り返しているところでした。ツルハンや剣先スコップなどの道具を巧みに操りつつ、談笑しながら作業を進める皆さんの中に混じり、楽しく身体を動かしました。雪の下から軟らかな春泥が現れて、季節の変化を肌で感じる事が出来ました。8日には、2月に剪定されていた枝をチップに加工しました。時折トラブルを起こすチップパーを手入れしては粛々と仕事をこなす皆さんの間で、チップパー内部の刃の様子など、見るもの聞くものにいちいち感心しつつお手伝いしました。泥から覗くミミズや、まだ短く雪に濡れつつも既に地を覆う用意を始めているハコベなどを見て、この林檎園の土の健やかさが思われました。抜いた木の跡には、もう新しく植樹はしないとのことで、お世話になっている林檎園が縮小してゆく寂しさも一抹感じましたが、皆さんと作業をご一緒して、清々しい春の日を味わえました。出来たてのチップも、燻製用に少々、ありがたく戴きました。皆さんお疲れ様でした。(記・深町)



## ■ ひとこま

### ◆万葉集の草木 (1) 「堅香子 (かたくり)」

大伴家持に次のような歌があります。

(万葉集 卷第十九 4143)

#### ものやそをとめのふの八十まが娘子てらぬらが汲み乱ふ寺井の上の堅香子の花

ここでいう「井」とは、つるべで水を汲みあげる「井戸」ではなく、自然の川や泉の流れの途中に水が溜まるような場所を作って(つまり水を「居」させて)人が水を汲めるようにしたところ、水汲み場のことです。

「ものふの」は「八十」の枕詞。ですから、この歌を口語訳すれば、「数多の娘たちが入れ替わり立ち替わり水を汲みに訪れる寺の水汲み場の上に咲いているかたくりの花よ」といったところでしょうか。初春の季語「堅香子の花」を私が初めて見たのは、大人になって札幌に引っ越してきてからでした。それ以来、この花がとても好きになりました。



まだ木々が葉をつける前の林床に、花びらを反り返らせて咲く淡い紅紫色の花は、文化の中心が明日香・奈良以西にあった万葉時代の歌に登場する植物としては、北海道でも馴染みの深いもののひとつでしょう。

鱗茎に豊富な澱粉を含んで、ご存知「片栗粉」の語源になった植物。個体数が減ってしまった今では、森で見かけても採取する気にはなれませんが、若い葉や花はおひたしにしても美味しいものです(たまに、居酒屋さんなどでお目にかかることがあります)。昔から、さぞや人々に愛されたのだろうと想像されます。寺井を見下ろすように、その脇の林の縁の斜面に咲いていたのであろう、かたくりの花の可憐さが目に見えるようですが、人からの見た目で安易に「可憐」といっても、種が落ちてから十年の歳月をかけて花を咲かせるとのことで、芯の強い、息の長い植物です。それだけに一度失われてしまうと回復するのが難しいのでしょうか。大切にしたいですね。(記・深町)

# ◆NHKおはようもぎたてラジオ便・北海道森物語り／

環境メッセージ(毎週 火曜 7:49～55分頃まで)放送予定 (2011・4～ 12・3)

4	12 26	森物語・道 森林ボランティア協会 深町宏美さん 森物語・森林総研究所 北海道支所 内山 拓さん
5	10 24	森物語・道 森林ボランティア協会 酒井和彦さん 森物語・道 林業試験場 <美唄>・林産試験場 <旭川>
6	14 28	森物語・道 森林ボランティア協会 深町宏美さん 森物語・道庁 農林水産林務部 山畔敏嗣さん
7	12 26	森物語・道 森林ボランティア協会 酒井和彦さん 森物語・道 林業試験場 <美唄>・林産試験場 <旭川>
8	9 23	森物語・道 森林ボランティア協会 深町宏美さん 森物語・森林総研究所 北海道支所 内山 拓さん
9	13 27	森物語・道 森林ボランティア協会 酒井和彦さん 森物語・道 林業試験場 <美唄>・林産試験場 <旭川>

2011年度は上記の日程になっています。聴いて下さい

## ●4月12日放送から

放送のタイトル：森ボラ通信 106号拾い読み

放送内容(担当・深町)：

この度の東日本大震災の被災者の皆様へ心からのお見舞いと、募金活動についてのお知らせを掲載しました。また、会員から、「大震災の映像をテレビにかじりついてみていたが、津波に、根のついた木が流されているのは一回しかみなかった。防潮林は果たして機能したのか、関心を持っている。情報があれば是非教えて戴きたい(落ち着いたら、植林に参加した襟裳のクロマツ植栽地を是非見に行きたい。)」という投稿が寄せられています。防潮林については、壊滅的な被害を受けた陸前高田市で、名勝「高田松原」の松が一本、なぎ倒されずに残ったことが、地元の方たちの復興への希望の象徴として話題になりました。なぎ倒された木々も、波の勢いを少しは弱めたかもしれません。森は様々な形で私たちに恩恵をもたらしてくれるものだと再認識しました。

## ■ 活動履歴

活動日	行事・活動地	参加人数	活動内容
3月24日(木)	セミナー・リンケージ	20	「エゾシカ」の実情を知る
3月28日(月)	リンゴ園	中止	残雪障害
3月29日(火)	リンゴ園	中止	残雪障害
3月31日(木)	澄川	中止	東北・関東大震災 節燃協力のため
4月1日(金)	澄川	中止	東北・関東大震災 節燃協力のため
4月5日(火)	澄川	12	集材整理
4月7日(木)	リンゴ園	11	老木処理(伐倒)
4月8日(金)	リンゴ園	6	老木処理(伐倒)
4月11日(月)	4月幹事会	10	定例
4月12日(火)	リンゴ園	12	老木処理(伐倒)
4月13日(水)	リンゴ園	6	老木処理(伐倒)
4月14日(木)	澄川	15	除伐・集材整理
4月15日(金)	研修・小樽博物館	15	野草・冬芽観察会

## ■ 今月の幹事会

出席者：市山・荻田・酒井・佐野・高野・津金・釣井・西野・矢澤・和田

審議および決定事項

- 1 3月の作業実績⇒報告
- 2 5、6月スケジュールの確認
- 3 幹事会メンバー杉本茂さん辞退されました。長い事有難うございました。檀棒典夫さんが新しいメンバーとして幹事会で承認されました
- 4 広報、業務、助成、研修企画の各委員から関連事項の報告
- 5 総会報告検討⇒2010年度事業報告及び2011年度事業計画
- 6 オイスカ植樹祭5月22日(日)対応検討
- 7 10周年記念プロジェクトチーム発足の検討

●幹事会の中に4つの運営委員会を新設、運用していきます。

各委員会の主たる担当業務

ボラ通、ホームページの編集管理、新人募集を広報委員会。

作業計画作成・交渉・実行報告を業務委員会。

助成、協力事業の申請報告を助成委員会。

教育啓蒙勉強会の企画開催を研修企画委員会。

委員会名	リーダー	委員	委員
広報委員会	西野悌三	高野 豊	深町宏美
業務委員会	荻田雄輔	津金和洋	矢澤 滋
助成委員会	釣井市朗	酒井和彦	檀棒典夫
研修企画委員会	和田 功	山中 司	佐野礼子

各委員会は3名で構成され、事務局とタイアップしながら定期的に対策会議の場を設け、幹事会運営に当たり計画性や方向性の明確化に繋がることが期待されます。また、各委員会では会員皆様方からの要望や提案を広く反映させていきたいと考えております。（記・市山）

●石狩地区森林ボランティア交流会活動の終了

4月4日当協会事務局にクマゲラ メープル シラカンバ 藻岩きのこの会の5団体が集まり今後の交流会の進め方について会議を行い以下の結論となりました。

交流会は2006年から持ち回りで開催されてきたがその意義は終わったので終了する。関係行政機関にはそれぞれの団体が対応する。

尚 当協会は今年度交流会の幹事でしたが、6月20日・21日に行う支笏湖CGCの森の下刈作業に希望団体の非公式な参加交流を呼び掛けました。

また交流会は終了しても年に一度くらいの飲み会を希望する意見も出ました。（記・酒井・市山）

## ■ お知らせ

◆「札幌市澄川都市環境林における学童・学生対象の森林教育環境整備」に助成

(株)ニトリホールディングス・ニトリ北海道応援基金の支援を受けました。2011年度の活動を開始します。有難う御座いました。

◆《第9期定期総会》開催のご案内

日時：平成23年5月6日（金）16：15～17：15

場所：札幌市リンケージプラザ 第三研修室（札幌市中央区1条西9丁目）

報告事項：2010年度事業報告・2011年度事業計画・その他

尚：総会に出席出来ない方の議決権は理事長一任と致します。

（ご意見のある方は書面にて報告下さい）